

# 龍海院「前橋城絵図」の記載情報について

関 口 荘 右<sup>1)</sup>・黒 澤 照 弘<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>群馬県立文書館古文書係・<sup>2)</sup>群馬県教育委員会文化財保護課

はじめに

1. 龍海院「前橋城絵図」の伝来と作成年代について

2. 龍海院「前橋城絵図」の記載内容について

(1)本丸・三階櫓(天守)、二の丸 (2)三の丸

(3)高浜曲輪 (4)厩曲輪・鼠曲輪

(5)下条曲輪

(6)高浜曲輪北側の酒井淡路屋敷・御前栽場

(7)三の丸北側の小曲輪 (8)土居曲輪

(9)水曲輪(加内曲輪) (10)嶋田曲輪、伯耆曲輪

(11)嶋田曲輪北側堀と広瀬川間、凡例・龍海院

結びにかえて

## — 要 旨 —

本稿は、龍海院「前橋城絵図」の城郭全体・各曲輪(廓)部分の画像を掲載し、併せて藩士名・屋敷地面積・各曲輪入口の城門などについての文字情報等を翻刻し、当該絵図の史料価値をより明らかにするとともに、前橋城や前橋藩政などの研究の一助にすることを目的とする。

当該絵図は、昭和42年(1967)に酒井家末裔の酒井忠正氏から龍海院へ寄贈された絵図数点のうちの1点であり、平成11年(1999)当館に寄託されたものである。また、作成年代については、諸点から近世前橋藩、酒井氏藩政時代の元禄年間初期かそれ以前の作成と考えられる。

絵図には、本丸三階櫓を初めとする各櫓、城門、堀、橋、藩士屋敷割り、利根川・広瀬川・風呂川、城下への用水口、などが詳細に描かれている。また、全面に彩色が施され、小路(雌黄色)、土居(緑青色)、堀・川(藍蠟色)、屋敷境(墨筋黒色)などと色分けされている。

今後の課題としては、他の前橋城絵図との比較・検証、これまでの前橋城発掘による考古学的成果との総合的な検証などがあげられる。

### キーワード

対象時代 江戸時代中期(元禄年間初期ころ)

対象地域 群馬県前橋市

研究対象 近世城郭絵図

## はじめに

前橋市紅雲町・龍海院所蔵文書「前橋城絵図」(P 9902 №1)<sup>1)</sup>とは、平成11年(1999)4月15日に、県立文書館職員2名が、曹洞宗大珠山是字龍海院(当時過外一雄住職)で調査、当館へ搬入し、その後同寺院から寄託された絵図である(年次不詳)。当時は、この絵図に続き龍海院所蔵の他の文書類についても、檀徒総代等に相談の上寄託される予定であったが、現在当館に寄託されている文書は、この「前橋城絵図」1点のみである。

龍海院は、近世前半期に上野国前橋藩主であった酒井家の菩提寺である。初代藩主酒井重忠の前橋転封に伴い、川越から移された。当初、寺は現在の前橋市岩神町付近にあったが、元禄期に現在地へ移されたという(同寺伝承)。当該絵図は、点検後に破損の恐れから「マイクロ閲覧」で公開されてきた。その後、平成24年11月、当館の開館30周年記念特別展(原寸大写真パネル)と2日間の実物展示会(原本)の際に公開した。

この龍海院「前橋城絵図」についての論稿は、『前橋市史 第二巻』<sup>2)</sup>、『前橋市史 第三巻』<sup>3)</sup>、「文書館だより 第50号」の表紙解説(筆者執筆)<sup>4)</sup>などがある。しかし、当該絵図の詳細部分(撮影画像)と記載情報(藩士名・屋敷地面積、櫓・門・堀などの建造物など)について、同時に掲載し、詳述した論稿は見当たらない。よって、本稿では、龍海院「前橋城絵図」の城郭全体・各曲輪(廓)部分の画像を掲載し、併せて藩士名・屋敷地面積・各曲輪入口の城門などについての文字情報等を翻刻し、当該絵図の史料価値をより明らかにするとともに、前橋城や前橋藩政などの研究の一助にしたいと考える。

## 1. 龍海院「前橋城絵図」の伝来と作成年代について

この絵図の伝来について、「龍海院所蔵文書等調査報告」<sup>5)</sup>によると、当該絵図は、昭和42年(1967)に酒井家末裔の酒井忠正氏(東京都在住)から龍海院へ寄贈された絵図数点のうちの1点である。その後、昭和50年の同寺屋根修復工事に際し、損傷の恐れから当該絵図を除き全ての絵図が前橋市に寄贈(売却)され、前橋市立図書館に収蔵された。<sup>6)</sup>さらに、前記のような経緯で平成11年4月に当館が調査・収集したものである。

当館搬入時の当該絵図の状態については、縦204cm×横198cmで、絵図全体の状態は良いが、白壁の上から緑色の顔料を塗った部分が破損し、「放置しておく今後破損の恐れがある」と指摘している。現在も同様の状態である。

絵図の作成年代については、記載がなく不明である。しかし、①絵図記載の藩士名から、5代藩主忠孝の代(天和元年(1681)～宝永4年(1707))と推定されること、②絵図に描かれている龍海院が、元禄年間に城北側

の岩神から城南側の現在地に移転したとされること、③城の縄張り・形状(本丸・二の丸等の形状や高浜曲輪が利根川によって浸食されていないこと)、④利根川の流路(本丸西側の川原のふくらみ)<sup>7)</sup>、⑤元禄4年(1691)城内創設の藩校好古堂が描かれていないこと<sup>8)</sup>などから、天和元年から元禄4年の間の作成と推定される。

## 2. 龍海院「前橋城絵図」の記載内容について

当該絵図には、本丸三階櫓を初めとする各櫓、城門(入口)、堀(長さ)、橋、藩士屋敷割り(藩士名・屋敷面積)、利根川・広瀬川・風呂川、城下への用水口、などが詳細に描かれている。また、全面に彩色が施され、小路は雌黄色、土居(土塁)は緑青色、堀・川は藍緑色、屋敷境は黒色(墨筋)などで描かれている。緑青色の土塁上に数多の白壁の櫓・堀などが描かれた姿は、「関東の華」と呼ばれるのにふさわしい城であったといえよう。以下、各曲輪ごとに描写情報の概略を記すが、各曲輪の画像と文字情報の翻刻については、本文の後にまとめて記載することとする。

## (1) 本丸・三階櫓(天守)、二の丸([絵図1・2・3])

本丸は、城郭の西端、西側が利根川に面している。南端に三階櫓(天守)が築かれ、その屋根は瓦葺き、台は石垣である。西側に3基の隅櫓(台は石垣)がある。周囲は、白壁の堀が築かれ廻らされている。

本丸をコノ字で囲むように二の丸がある。南・北側は水堀で本丸と隔てられているが、東側の南北に細長い区域は、白壁の堀で本丸と隔てられているのみである。南面東寄りに二の門(二の丸門)があり、南西に隅櫓が1基ある。

## (2) 三の丸([絵図4])

三の丸は、東西南北それぞれに1基ずつの城門がある。白壁の堀は、東・南・北面に築かれ、周囲を水堀が廻っている。内部は、高須・本多・川合という家老格藩士などの屋敷8軒と御長屋(藩主帰城時の御供の宿泊所)がある。約100年間の廃城(陣屋支配)期を経て、慶応3年(1867)完成の「再築前橋城」は、ここを本丸とし築かれた。

## (3) 高浜曲輪([絵図5])

高浜曲輪は、二の丸の北側に水堀を隔てて築かれ、酒井弾正の屋敷があったので、「北の丸」や「弾正屋敷」とも呼ばれた。北西と南東に隅櫓が1基ずつあるが、このうち北西の隅櫓はこの後の利根川の洪水等により、城内の建造物で最も早く崩壊し失われたと考えられる。

## (4) 厩曲輪・鼠曲輪([絵図6])

厩曲輪は、水堀を隔てて二の丸の南側にあった。南・東・西側に白壁の堀を廻らし、北東と南東に小城門があった。このうち、南東城門の内側に小規模な建物が描かれている。

鼠曲輪には、川合惣兵衛の屋敷と「御修覆賄小屋」があった。南側に門があり、門外の道は下条曲輪に続いていた。

(5) 下条曲輪（柿之宮曲輪）（〔絵図7・8・9〕）

下条曲輪は、前橋城の最南部に位置し、3区域（西・東・南側の小廓）に分かれている。このうち、南側小廓の南面と「御塩焔蔵」東側に白壁の塀が築かれている。また、南側小廓の東側と「御塩焔蔵」東側に城門が築かれている。

(6) 高浜曲輪北側の酒井淡路屋敷・御前栽場（〔絵図10〕）

高浜曲輪と水堀を隔てた北側には、酒井淡路らの屋敷と御前栽場（植栽や築山のある庭園）があった。しかし、この後の利根川の洪水により、その多くが失われた。

(7) 三の丸北側の小曲輪（〔絵図11〕）

三の丸北門から続くこの小曲輪には、酒井兵庫、松下七太夫らの屋敷があった。

(8) 土居曲輪（外曲輪）（〔絵図12・13・14・15・16〕）

土居曲輪は、水堀を隔てて三の丸の北東側に位置する最も広い曲輪である。よって、最も多くの藩士名・屋敷面積が記され、本稿後掲の絵図画像の翻刻も5枚にわたっている。北東面に柳原口（門）、東面に嶋田曲輪に出る門、南東面に比較的大きい車橋門などがある。

白壁の塀について、北側は柳原口まで描かれている。しかし、①柳原口東から嶋田曲輪へ出る城門との間、②①の城門と南東面の隅櫓との間、③南東部の車橋門と南面の水曲輪出口との間は、当初白壁が描かれた上に緑青が塗られ、土塁に変えられた形跡がある（東側に損傷あり）。このようになぜ塗りかえられたのか、原因究明が必要である。

(9) 水曲輪（加内曲輪）（〔絵図16・17〕）

水曲輪は、水堀を隔てて土居曲輪の北東側に位置し、特に車橋門と水曲輪口（門）の間の小路両側には多くの藩士屋敷がある。この曲輪南面の水曲輪門両側も土居曲輪と同様に白壁が緑青に塗りかえられ、損傷がみられる。

(10) 嶋田曲輪、伯耆曲輪（〔絵図17・18〕）

嶋田曲輪は、水堀を隔てて加内曲輪の東側に位置する。北側に坪呂岩口（門）、南側に大手門があり、1軒の屋敷面積が比較的大きい。この2門の両脇以外の白壁塀部分も緑青色で塗られ、亀裂などの損傷がみられる。

伯耆曲輪は、水堀を隔てて嶋田曲輪の南側に位置する。藩士屋敷地と勘定所があり、北東部に大手口がある。

(11) 嶋田曲輪北側堀と広瀬川間、凡例・龍海院（〔絵図19・20・21〕）

嶋田曲輪北側堀と「廣瀬川」の間にも、多数の藩士屋敷が配されている。また、凡例は絵図の右下部分（南東方向）に、龍海院は真下（南方向）に描かれている。

## 結びにかえて

以上、龍海院「前橋城絵図」の記載情報について、概略を記した。前橋市立図書館所蔵の作成年代が明らかな寛文6年（1666）～享保2年（1717）の前橋城絵図は6点ある。それらと比較して龍海院「前橋城絵図」は、近似する1点を除いて文字・絵図情報量のはるかに多く、色鮮やかである。

今後の課題としては、第一に、龍海院に同時に寄贈され、その後前橋市立図書館に収蔵された数点の絵図との比較・検証があげられる。特に、当該絵図と近似する「前橋城図」（Kサカイ-1-9）との比較・検証は早急に実施したい。第二に、当館収蔵の全ての前橋城絵図について整理し検証することである。第三に、当館や前橋市立図書館に収蔵されている全ての前橋城絵図の統一的な整理や編年作業である。第四に、当初白壁の塀が描かれた上に、後に緑青で上塗りし塀を短くしている点の究明である。第五に、県教委・前橋市教委・（公財）県埋蔵文化財調査事業団などによるこれまでの考古学的成果との総合的な検証である。これらの検証作業は、当該絵図の作成年代の絞り込みや特定、その他の絵図の検証などが進み、前橋城の研究は勿論、近世前橋藩の研究等に大きく寄与するものと思われる。

## 【註】

- 1) 「P 9902 No.1」は県立文書館の請求番号と文書番号。
- 2) 『前橋市史』第二巻（前橋市史編さん委員会、1973年8月）P1338～第五章近世の城郭 第一節前橋城
- 3) 『前橋市史』第三巻（前橋市史編さん委員会、1975年10月）P1147～第10章家臣の住居 第一節家臣住居の配置 1 酒井氏時代
- 4) 「文書館だより」第50号（群馬県立文書館、2013年3月）関口執筆表紙解説
- 5) 平成11年（1999）4月15日、県立文書館の新井・佐藤による調査・搬入時の記録。
- 6) 前橋市立図書館所蔵の前橋城絵図のうち、分類番号が「Kサカイ〇ー〇」となっている計7点などがこれに該当すると思われる。
- 7) 利根川の流路について、元禄12年（1699）・同14年・同15年・宝永3年（1706）と立て続けに利根川の洪水が発生した。その後、宝永・正徳期にかけて前橋藩は堤防や利根川流路変更工事を幕府に申請したが、その際の絵図が何点か残されている。これらの絵図の利根川流路は、当該絵図の流路と異なり、後の姿と考えられる。
- 8) 藩校好古堂の位置について、同校は18世紀半ばの酒井氏姫路転封直前期の絵図では、三の丸北側の堀を隔てた土居曲輪側の一角に描かれている。記録では、元禄4年の同校創設時は三の丸にあったとされるが、その後前記の場所に独立して建設された、とも考えられる。また、絵図作成時には、三の丸のいずれかの建物内に同校が設けられ、絵図には明記されなかった可能性もある。

## 《主な参考文献》

- ・『前橋市史』第二巻（前橋市史編さん委員会、1973年）・『前橋市史』第三巻（前橋市史編さん委員会、1975年）
- ・『上州の諸藩（下）』（上毛新聞社、1982年）
- ・『藩史大辞典 第2巻 関東編』（雄山閣出版、1989年）
- ・『群馬県史』通史編4 近世1政治（群馬県、1990年）



# 龍海院「前橋城絵図」各曲輪の画像と文字情報の翻刻（〔絵図 1 ～ 21〕）

〔絵図 1〕 龍海院「前橋城絵図」（城郭全体、P9902 No. 1、縦204cm×横198cm）

①北

②御前栽場

③小曲輪

④高浜曲輪

⑤三の丸

⑥西

⑦御本丸

⑧三階櫓

⑨御二の丸

⑩鼠曲輪

⑪厩曲輪

⑫下条曲輪

⑳土居曲輪

⑲嶋田曲輪

⑱東

⑰伯耆曲輪

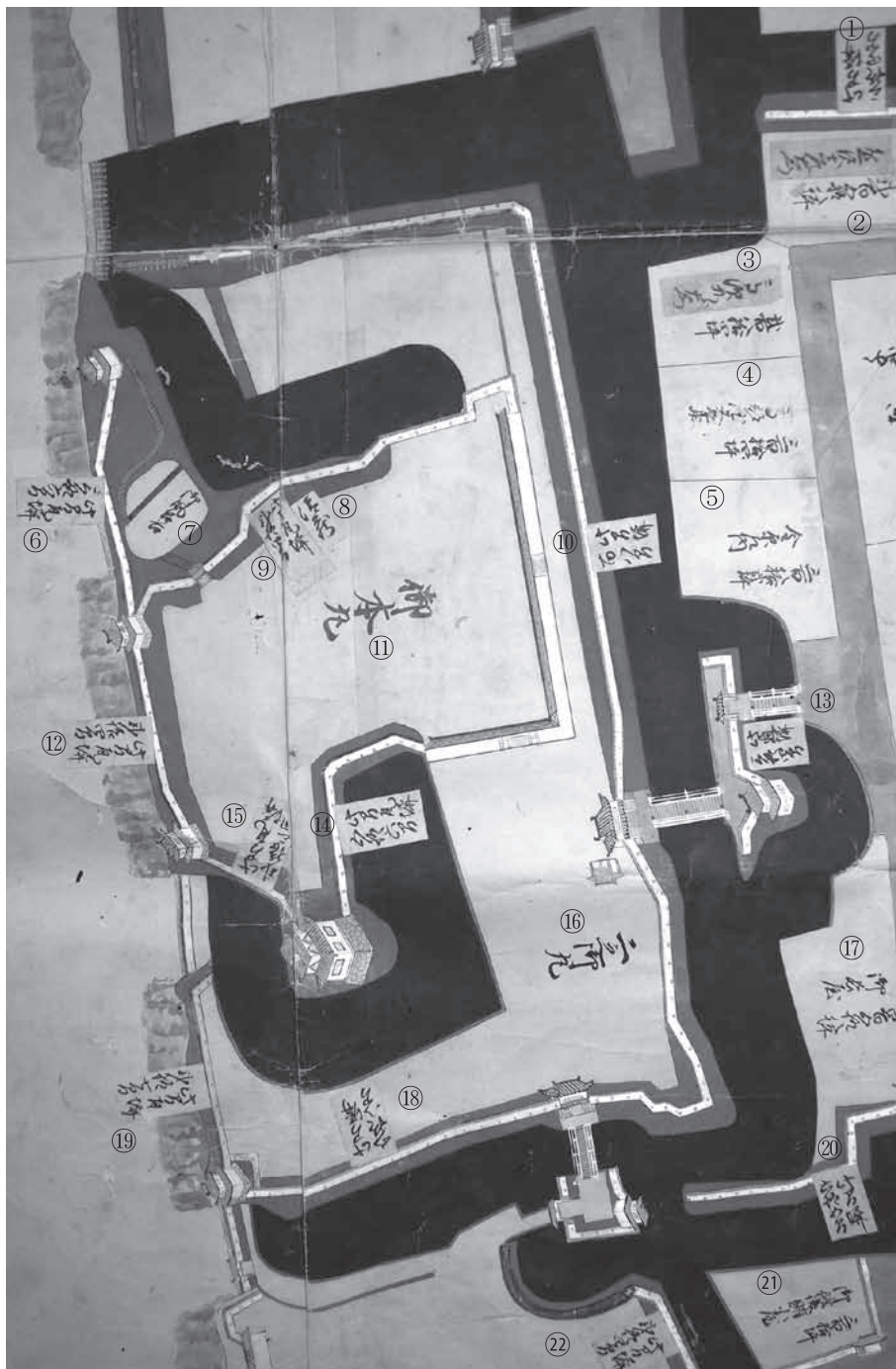
⑯水曲輪

⑮凡例



⑬南 ⑭龍海院



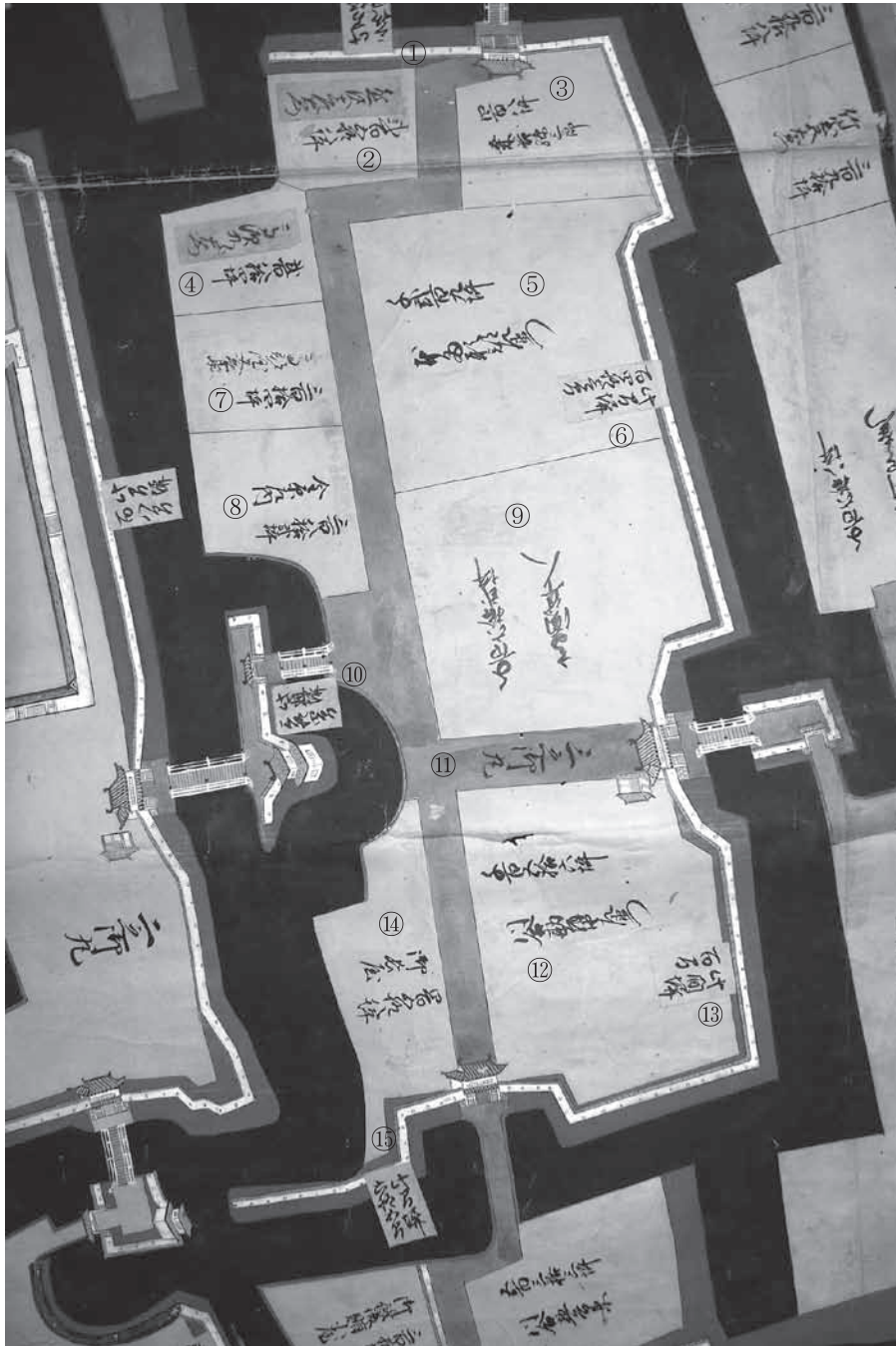


〔絵図 2〕  
本丸（三階櫓）・二の丸・  
三の丸（西側一部）

- ① 此間塀34間
- ② 熊沢彦右衛門 258坪
- ③ 高須九郎右衛門 284坪
- ④ 高部屋又兵衛 314坪
- ⑤ 金原左内 382坪
- ⑥ 此間瓦塀36間
- ⑦ 御風呂谷
- ⑧ 清蔵
- ⑨ 此間瓦塀24間
- ⑩ 此間塀108間
- ⑪ 御本丸
- ⑫ 此間瓦塀24間
- ⑬ 此通塀34間
- ⑭ 此間瓦塀56間
- ⑮ 此間瓦塀23間
- ⑯ 二之御丸
- ⑰ 御長屋 458坪
- ⑱ 此間瓦塀58間
- ⑲ 此間瓦塀27間
- ⑳ 此間塀65間
- ㉑ 御修覆賄小屋 310坪
- ㉒ 此間瓦塀24間

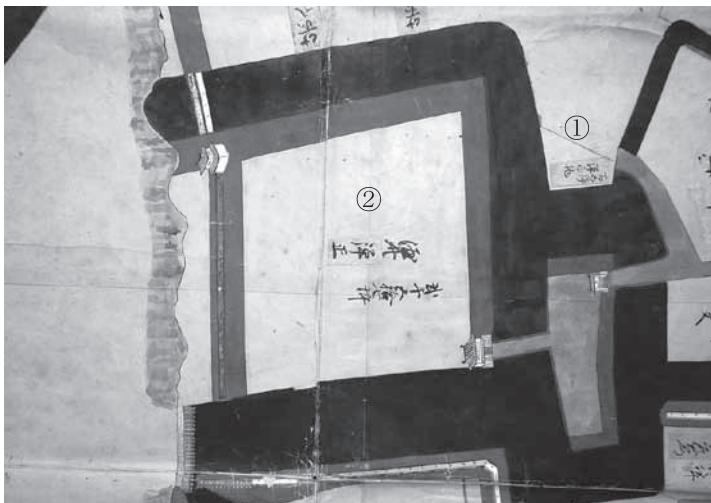


〔絵図 3〕  
本丸南側三階櫓（東・西・南側は水堀）



〔絵図4〕三の丸

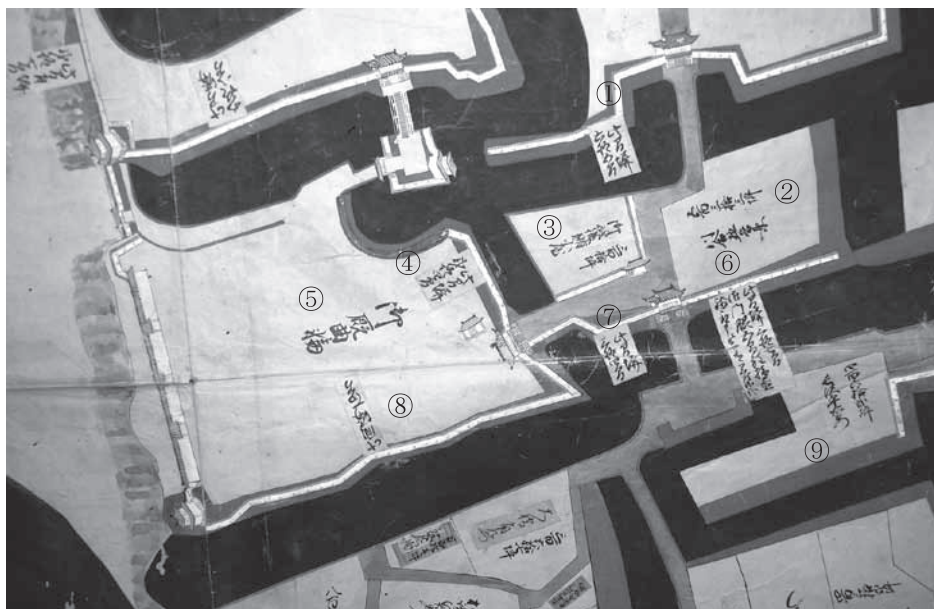
- ① 此間堀34間
- ② 熊沢彦右衛門 258坪
- ③ 栗谷孫三郎 408坪
- ④ 高須九郎右衛門 284坪
- ⑤ 本多刑部左衛門 1209坪
- ⑥ 此間堀141間
- ⑦ 高部屋又兵衛 314坪
- ⑧ 金原左内 382坪
- ⑨ 高須隼人 1162坪
- ⑩ 此通堀34間
- ⑪ 三之御丸
- ⑫ 川合勘解由左衛門 1156坪
- ⑬ 此間堀100間
- ⑭ 御長屋 458坪
- ⑮ 此間堀65間



〔絵図5〕高浜曲輪

- ① 弾正抱 105坪
- ② 酒井弾正 2057坪





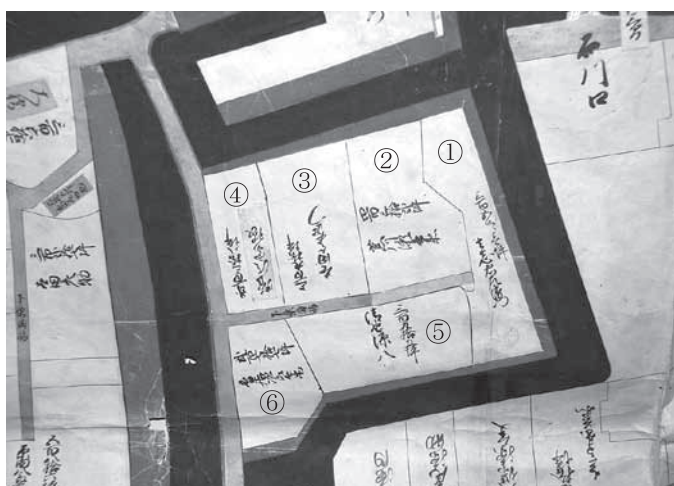
〔絵図 6〕 厩曲輪ほか

- ① 此間堀65間
- ② 川合惣兵衛 533坪
- ③ 御修覆賄小屋 310坪
- ④ 此間堀24間
- ⑤ 御厩曲輪
- ⑥ 此間堀37間御門脇 5 間程  
捨置残取申にてこれ有る  
べく御座候哉
- ⑦ 此間堀34間
- ⑧ 此間堀100間
- ⑨ 長沢平右衛門 462坪



〔絵図 7〕 下条曲輪西側

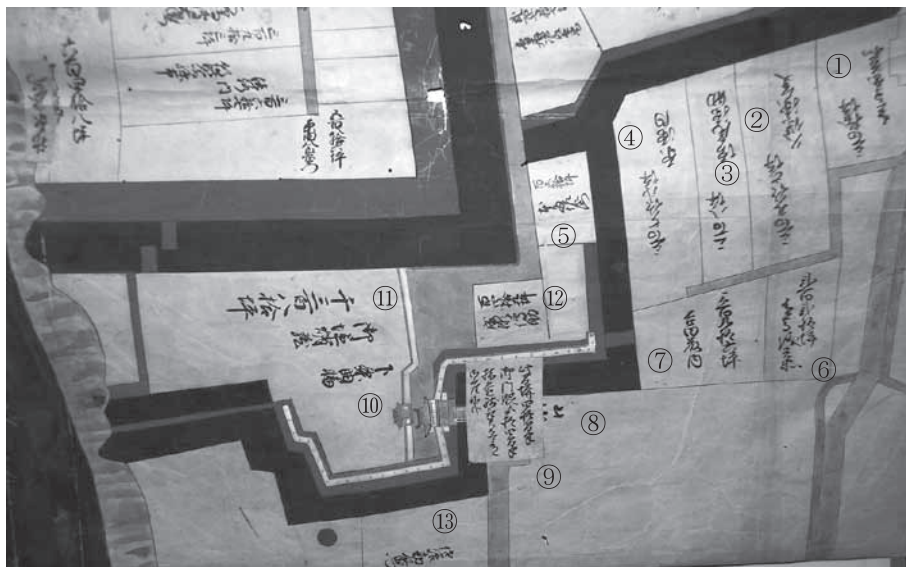
- ① 大橋角左衛門 367坪
- ② 角左衛門抱 121坪
- ③ 太田彦助抱 65坪
- ④ 太田彦助 327坪
- ⑤ 松崎郷右衛門 357坪
- ⑥ 和田十右衛門 393坪
- ⑦ 大橋伝右衛門 393坪
- ⑧ 淡路内朝比奈孫市 367坪
- ⑨ 川端助内 866坪
- ⑩ 神原庄右衛門 648坪
- ⑪ 原田八郎右衛門 586坪
- ⑫ 本多佐左衛門 150坪



〔絵図 8〕 下条曲輪東側

- ① 真志忠左衛門 351坪
- ② 荒川瀬兵衛 432坪
- ③ 太田与右衛門 390坪
- ④ 蜂須家録 238坪
- ⑤ 清野源八 395坪
- ⑥ 鳥居次郎兵衛 277坪



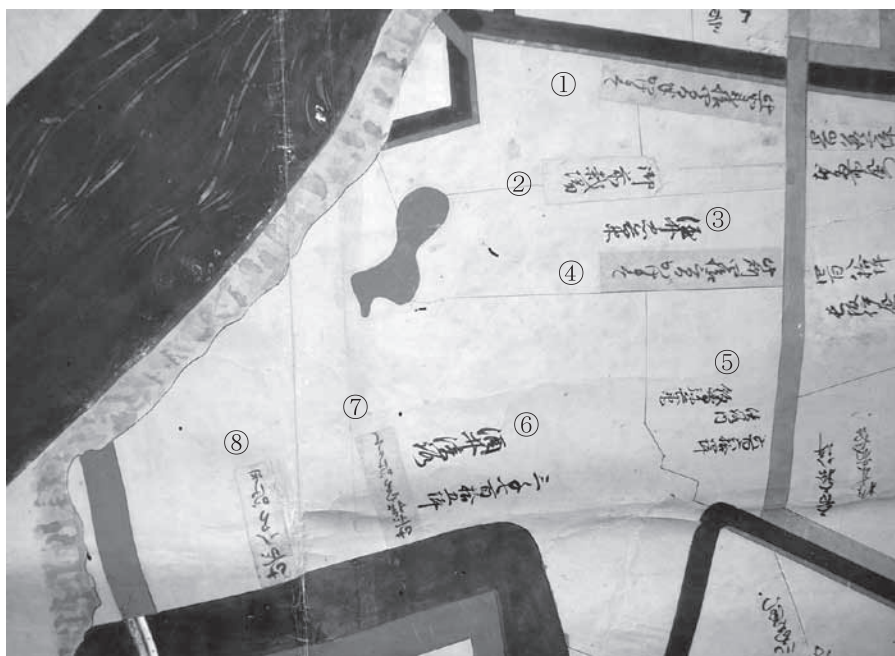


⑩下条曲輪 ⑪御塩焔蔵 1380坪 ⑫成瀬伝助 149坪 ⑬佐治勘左衛門

〔絵図9〕

下条曲輪南側と堀外東

- ①有馬甚兵衛 310坪
- ②久保孫太夫 396坪
- ③増尾孫助 308坪
- ④原 源内 372坪
- ⑤本多佐左衛門 150坪
- ⑥有馬儀兵衛 220坪
- ⑦吉田藤内 396坪
- ⑧□□□ (付箋貼付解説不可)
- ⑨此間堀40間半  
御門脇より14間半  
指置残取申にてこれあるべ  
べく御座候哉 (付箋)



〔絵図10〕 高浜曲輪北側

- ①此所24間半がけまで
- ②御前裁場
- ③酒井忠兵衛
- ④此所43間がけまで
- ⑤淡路内飯島弥兵衛 664坪
- ⑥酒井淡路 3715坪
- ⑦此所15間がけまで
- ⑧此所 8 間がけ迄



〔絵図11〕 三の丸北側の小曲輪

- ①石田弥市郎 610坪
- ②酒井兵庫 1073坪
- ③弾正抱 105坪
- ④此通堀28間
- ⑤松下七太夫 303坪
- ⑥此間堀34間
- ⑦熊沢彦右衛門 258坪
- ⑧栗谷孫三郎 408坪

※水堀東側の5軒は、土居曲輪につ  
つき、ここには記載せず。



〔絵図12〕 土居曲輪北側①

① 此所19間欠迄

② 御前栽場

③ 上村三太夫 326坪

⑦ 塚本玄甫 570坪

⑧ 八森七兵衛 277坪

⑨ 芦谷十左衛門 240坪

⑮ 山家惣左衛門 585坪

④ 本多所左衛門 487坪

⑩ 山田清兵衛 525坪

⑳ 茂呂三郎右衛門 250坪

⑯ 速見九兵衛 540坪

⑤ 長坂伊左衛門 480坪

⑪ 針谷新五左衛門 418坪

㉑ 柴田伊右衛門 550坪

⑰ 本庄甚五左衛門 587坪

⑫ 水野五郎兵衛 578坪

⑥ 梶木藤右衛門 558坪

⑬ 志賀又左衛門 668坪

⑱ 三浦文右衛門 379坪

⑭ 淡路下屋敷

⑲ 梅田正摘 393坪

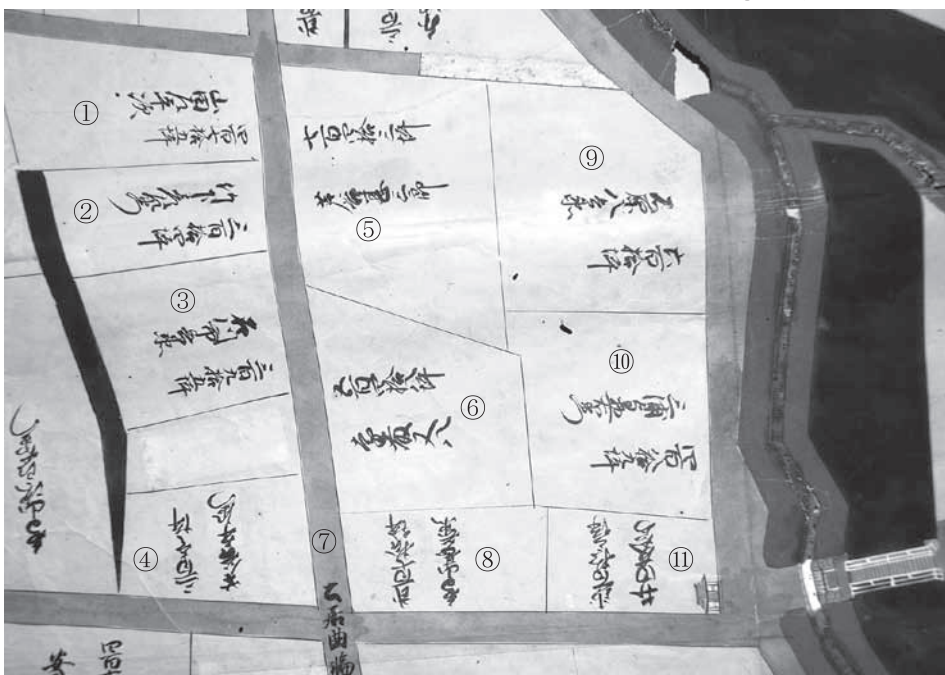
㉒ 鳥山次郎右衛門 766坪





〔絵図13〕 土居曲輪北側②

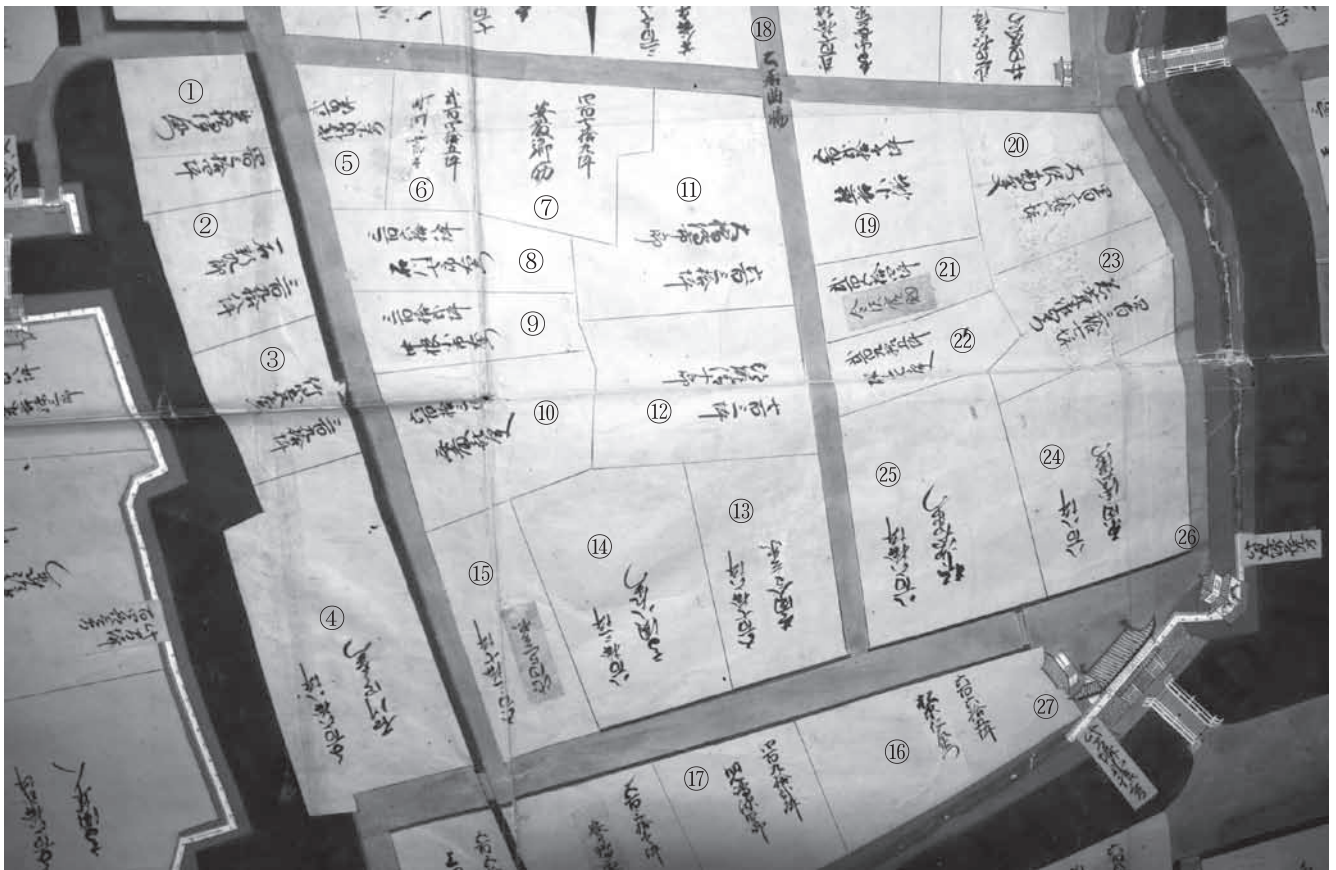
- |              |              |               |
|--------------|--------------|---------------|
| ①一石五左衛門 502坪 | ②三屋元仲 226坪   | ⑥柳原口          |
| ③柴田源太夫 271坪  | ④飯嶋伝七郎 265坪  | ⑨番所           |
|              | ⑤中根市郎兵衛 279坪 |               |
|              | ⑦の場 296坪     | ⑧外池十郎左衛門 391坪 |



〔絵図14〕 土居曲輪北側③

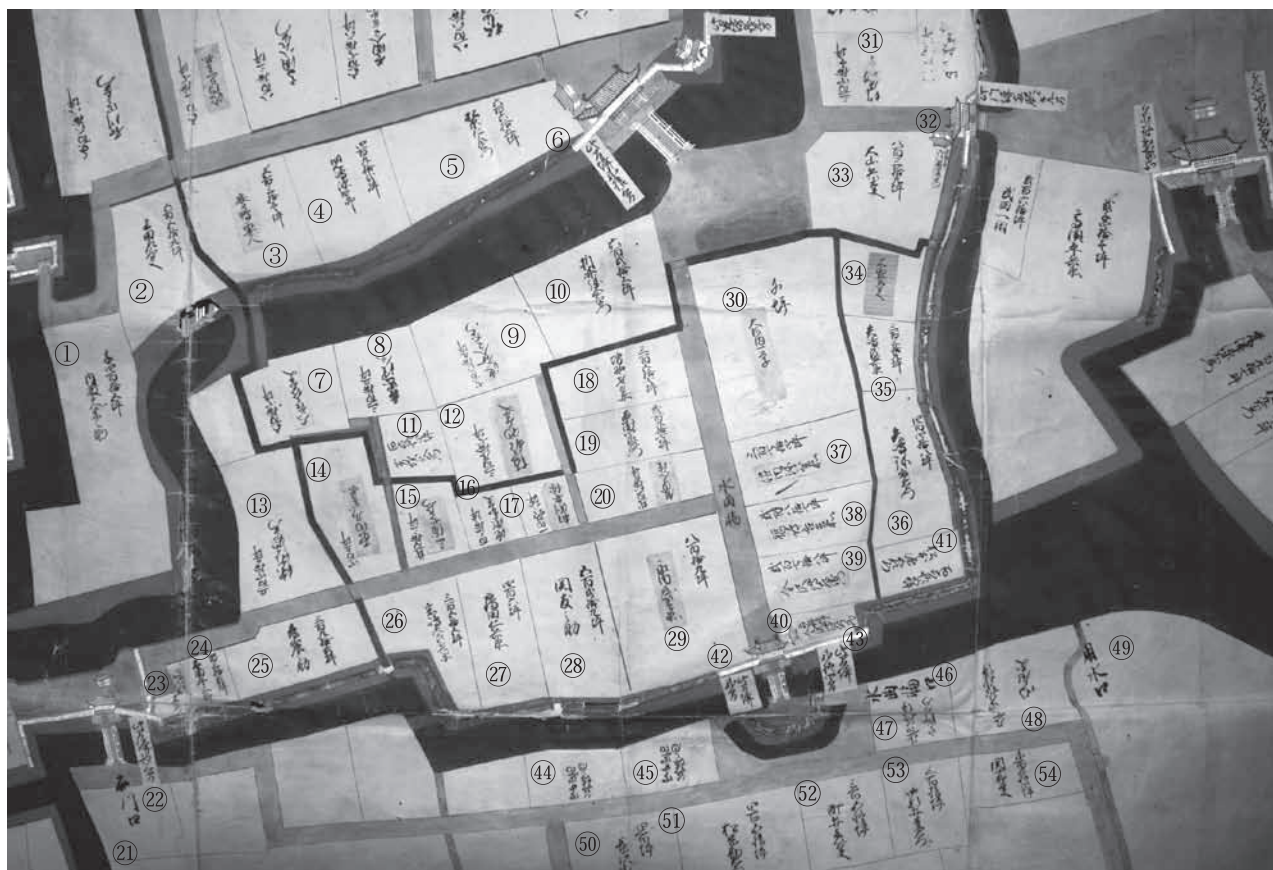
- |              |               |              |
|--------------|---------------|--------------|
| ①山田左平次 475坪  | ⑤芦谷甚三郎 743坪   |              |
| ②竹下彦左衛門 314坪 | ⑨石原八兵衛 610坪   |              |
| ③石川市兵衛 395坪  | ⑩三浦与惣右衛門 489坪 |              |
|              | ⑥遠藤又八 548坪    |              |
| ④芦谷平左衛門 301坪 | ⑦土居曲輪         | ⑧鳥山甚兵衛 270坪  |
|              |               | ⑪井田友右衛門 213坪 |





〔絵図15〕 土居曲輪南側

- |                |               |               |
|----------------|---------------|---------------|
| ①岩橋伊左衛門 434坪   | ⑤佐保田小右衛門 200坪 | ⑦安藤郷助 479坪    |
|                | ⑥町田五郎平九 245坪  | ⑧土居曲輪         |
|                |               | ⑨熊谷小膳 521坪    |
|                |               | ⑩大沢勘太夫 466坪   |
|                | ⑪石川七郎右衛門 368坪 | ⑫大橋伝市郎 630坪   |
| ②一石新九郎 398坪    |               | ⑬金沢官助 254坪    |
|                | ⑭中根小市右衛門 312坪 | ⑮磯上七太夫 295坪   |
|                |               | ⑯都筑清十郎 703坪   |
| ③竹室五右衛門 390坪   |               | ⑰若菜佐五右衛門 437坪 |
|                | ⑱斎藤喜太夫 613坪   |               |
|                |               | ⑲原田浅右衛門 808坪  |
|                |               | ⑳松下次右衛門 860坪  |
|                | ㉑太田金兵衛 576坪   |               |
|                | ㉒高須八左衛門 813坪  |               |
|                |               | ㉓此通堀19間       |
|                | ㉔池内与一兵衛 537坪  |               |
| ④石川四郎右衛門 1168坪 |               |               |
|                | ㉕松原仁左衛門 665坪  | (隅櫓)          |
|                |               | (車橋門)         |
|                | ㉖児嶋源四郎 492坪   | ㉗此間堀23間       |



〔絵図16〕 水曲輪（加内曲輪）①中心部、土居曲輪南端・車橋門

- ⑥此間塀23間（車橋門）  
 ②上田左太夫559坪 ③鴛鴨要人531坪 ④児嶋源四郎492坪 ⑤松原仁左衛門665坪  
 ①内藤久米之助1415坪  
 ⑦大谷喜太夫 514坪 ⑧吉岡理介 315坪 ⑨池谷金左衛門 769坪 ⑩折井弥五右衛門 625坪  
 ③①竹尾助太夫 341坪 ③②御門番 四郎右衛門27坪  
 ③③大山兵太夫 839坪  
 ③④大山兵太夫  
 ③⑤大河内一学 1000坪 ③⑥矢嶋茂兵衛 339坪  
 ③⑦増野才兵衛 357坪  
 ③⑧矢嶋弥市右衛門 448坪  
 ③⑨芳賀久右衛門 164坪 ③⑩坂部助太夫 397坪 ③⑪原田四郎左衛門 297坪  
 ③⑫飯田見陸 262坪 ③⑬沼田弥次兵衛 374坪  
 ③⑭三浦七左衛門 213坪 ③⑮深瀬甚太夫 138坪 ③⑯桐淵安休 118坪  
 ③⑰深瀬弥右衛門 545坪 ③⑱原田九郎兵衛 405坪  
 ③⑲福嶋善兵衛 287坪  
 ③⑳太田平三郎 132坪 ③㉑龜山辰之助 392坪 ③㉒岩嶋六郎兵衛 355坪 ③㉓鶴田仁兵衛 406坪  
 ③㉔御門番 甚右衛門74坪  
 ③㉕関友之助 529坪 ③㉖永田武兵衛 819坪  
 ③㉗金沢伝左衛門 278坪 ③㉘松本源五左衛門 165坪  
 ③㉙金沢伝左衛門抱 60坪  
 ③㉚此門塀13間  
 ③㉛石川口  
 ③㉜此間塀2間（門） ③㉝此間塀24間  
 ③㉞水曲輪口 ③㉟用水口  
 ③㊱4480坪之内 ③㊲4480坪之内 ③㊳宇野小右衛門 280坪 ③㊴明屋敷 942坪  
 ③㊵関十郎太夫264坪  
 ③㊶長沢小太夫400坪 ③㊷松岡勘右衛門450坪 ③㊸町井彦太夫350坪 ③㊹中新井左右衛門310坪



〔絵図17〕 水曲輪（加内曲輪）②北部、嶋田曲輪

- ①小川与助 653坪 ②片山志賀右衛門 483坪  
 ③秋本清左衛門 304坪 ④赤堀源太夫 484坪
- ⑤天野九左衛門 376坪 ⑥嶋田曲輪 ⑩中岡市左衛門 350坪  
 ⑦宮地加兵衛抱 80坪 ⑧宮地加兵衛 784坪 ⑨材木小屋之場 748坪5合  
 ⑪高須与一右衛門抱77坪 ⑫根岸弥左衛門250坪
- ⑬天野善十郎 280坪 ⑭松崎市太夫 311坪  
 ⑮松平内記 2003坪 ⑯川合田宮 511坪 ⑰此間堀19間 ⑱此間堀18間  
 ⑲此間堀18間 ⑳西松又左衛門 364坪 ㉑伊田伝兵衛 570坪  
 ㉒用水口 ㉓○
- ㉔都筑六左衛門400坪 ㉕西松次左衛門344坪 ㉖松野春庵302坪  
 ㉗此門堀両脇にて9間 ㉘御門番四郎右衛門 27坪  
 ㉙此通堀12間（大手門） ㉚此通堀26間  
 ㉛高須与一右衛門 545坪
- ㉜竹田一閑 260坪 ㉝高須平兵衛 2041坪  
 ㉞大手口 ㉟東  
 ㊱御勘定所 486坪 ㊲此通堀29間





〔絵図18〕 伯耆曲輪

⑧ 大手口

⑨ 此通塀29間

⑤ 布川佐次右衛門 518坪 ⑥ 秋生六郎左衛門 379坪 ⑦ 御勘定所 486坪

① 米津源右衛門 697坪

⑩ 伯耆曲輪

② 岩松九右衛門 373坪

③ 戸倉喜兵衛 526坪 ⑪ 柴山八十郎 357坪

⑫ 上村三太夫 332坪 ⑬ 吉田七郎右衛門 289坪

④ 尾崎十三郎 282坪

⑭ 鈴木権右衛門 394坪 ⑮ 松崎八郎兵衛 368坪

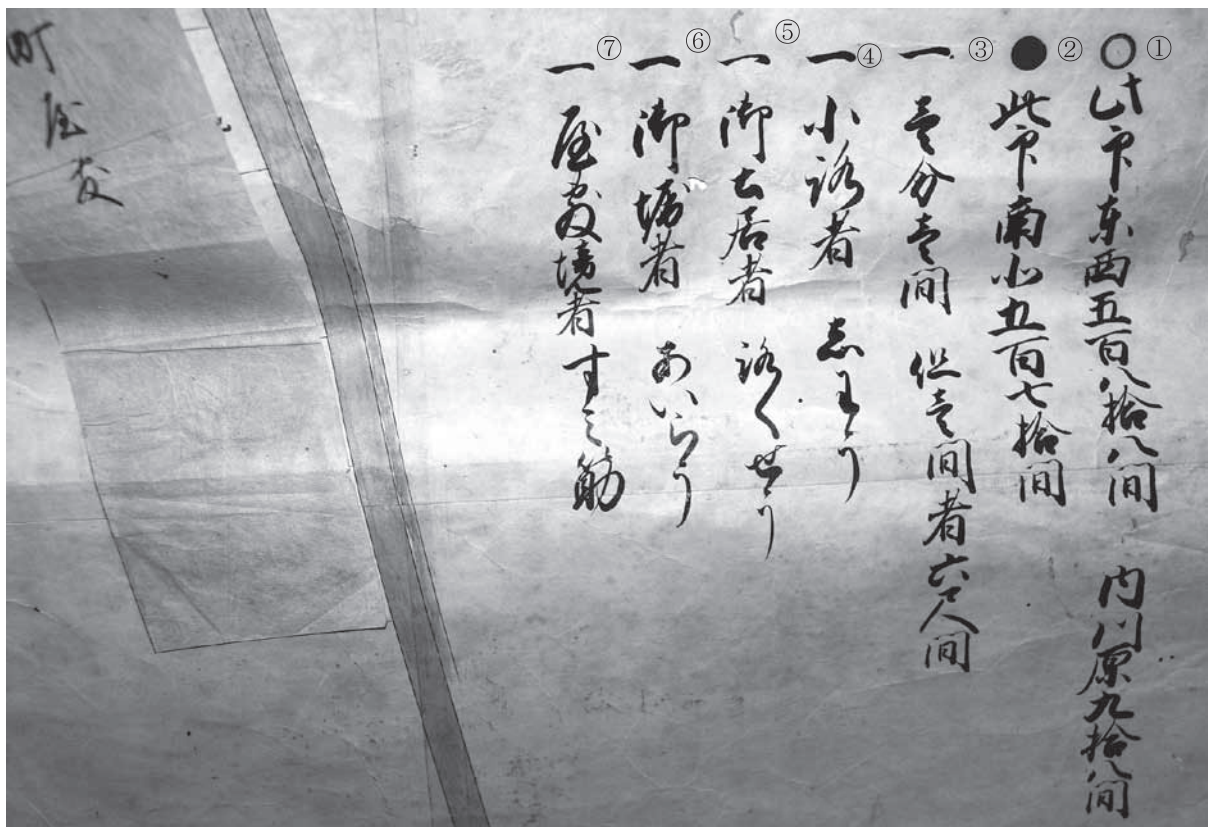
⑯ 用水口

⑰ 用水口



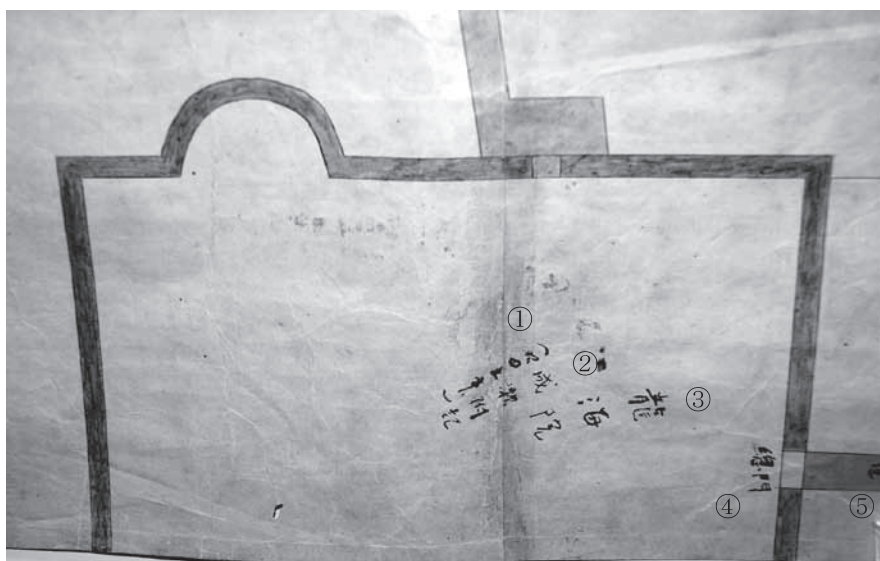
〔絵図19〕 嶋田曲輪北側堀と広瀬川間

- |                      |                  |                |
|----------------------|------------------|----------------|
| ①伊勢之宮                | ①⑥中根治太夫 236坪     | ②⑧廣瀬川          |
| ②高橋庄吉 194坪           | ①⑦御長屋 209坪4合     | ②⑨町屋敷          |
| ③牛込治太夫跡屋敷 423坪       | ②⑦都筑久右衛門 450坪    | ③④②成然寺         |
| ④福田市太夫 450坪          | ③⑧御長屋 280坪       | ④③本多伊左衛門       |
| ⑤細井久太夫 300坪          | ④⑩丸橋文右衛門250坪     | ⑤③上野佐右衛門300坪   |
| ⑥上田六郎太夫 500坪         | ⑤②奥野庄太夫 300坪     | ⑥③志賀次郎兵衛367坪   |
| ⑦用水                  | ⑥④御長屋 187坪5合     | ⑦④①            |
| ⑧坂部三六86坪             | ⑦⑨笹沼彦兵衛 502坪     | ⑧⑤明屋敷 145坪9合   |
| ⑨本多六郎兵衛86坪           | ⑧⑩明屋敷 250坪       | ⑨⑥石井三之丞 350坪   |
| ⑩光坂團七99坪             | ⑨①根岸源太左衛門 577坪5合 | ⑩⑦加藤仁左衛門400坪   |
| ⑪岩橋助右衛門99坪           | ⑩②五十嵐新蔵 400坪     | ⑪④片山太郎兵衛688坪   |
| ⑫阿知和孫助 98坪           | ⑪③高須七郎太夫 445坪    | ⑫③⑧沼田弥兵衛400坪   |
| ⑬岡崎一徳 99坪            | ⑫④中村又三郎 435坪     | ⑬④③            |
| ⑭倉本市兵衛 518坪          | ⑬③角南洞庵 314坪      | ⑭④青木弥惣右衛門 454坪 |
| ⑮酒井忠兵衛 612坪          | ⑭④高部屋又四郎 435坪    | ⑮④町屋敷          |
| ⑯此間瓦塀38間<br>内19間当分破損 | ⑮⑥本多甚五右衛門 515坪   | ⑯④吉田孫右衛門 558坪  |
|                      | ⑯⑤岩松弥惣左衛門 451坪   | ⑰④佐藤又蔵 384坪    |
|                      | ⑰④廣瀬三左衛門 379坪    | ⑱④下町           |
|                      | ⑱④大橋角太夫 412坪     | ⑲④野尻甚五左衛門 468坪 |



〔絵図20〕 凡例（右下部分）

- ①○ 此印東西588間 内川原98間
- ②● 此印南北570間
- ③一 1分1間 但1間は6尺間
- ④一 小路は しわう（雌黄）
- ⑤一 御土居は ろくせう（緑青）
- ⑥一 御堀は あいらう（藍蠟）
- ⑦一 屋敷境は すミ筋（墨筋）



〔絵図21〕 龍海院（真下部分）

- ①（次四五事カ）
- ②成瀬附記
- ③龍海院

- ④総門
- ⑤参道